

外国人に日本語を教えるボランティア団体

Tachikawa International Friendship Association

会長挨拶

立川国際友好協会 会長 小林 保



TIFA は 30 年以上にわたり立川市近郊に住む外国人に日本語の学びの場を提供し、国際交流の活動をしてきました。その会長として、今期皆さんと一緒に活動できることを大変光栄に思っております。また、今まで TIFA の活動にご尽力されました前任会長他、多くの TIFA 会員の皆様には感謝をしております。

会長に就任するにあたり、私のプロフィールを簡単に紹介させていただきます。定年退職直前から東南アジアの国々に興味をもち、海外に住む手段として日本語教師になれば、現地での生活を楽しめそうだと、退職後すぐに高田馬場にある日本語教師養成学校に入学しました。卒業後にフィリピン・マニラの日本語学校で教えることにほぼ決まりかけていたのですが、3.11 東日本大震災が発生し、多くの国々で日本語学習の熱が冷め、マニラで日本語教師になる話は立ち消えてしまいました。通勤途上に日本語学校に掲示してある「ベトナム技能実習生送出し機関 日本語教師募集」の張り紙が目に入り、すぐに応募しました。今まで、ベトナムのハノイに1回、ホーチミンに3回、日本語教師として生活をする貴重な体験をすることができました。

私が TIFA に入会したのは、2011 年で、TIFA 創立 20 周年式典を開催した年でした。その後、2012、2013 年度に企画渉外部長となり、バス旅行等多くのイベントを経験することができました。2014～2019 年度は広報部長として会報の編集や発刊を行い、2016 年度には、生涯学習ボランティアの指導の下、TIFA ホームページを開設しました。2022、2023 年度には副会長として「世界ふれあい祭」や「すわっ祭での作品展等」の企画をしました。

私たちの活動は、立川市近郊に住む外国人がより円滑に日本で生活や社会参加ができるように間接的に

サポートすることで、日本語を教えることはその第1歩です。ボランティア会員全体のスキルを向上させるために、これからも従来と同様に様々な工夫をして定期的に研修会を開催するつもりです。第2歩として、各種イベントを通じて日本の文化を体験させたり、地域社会とのつながりをもち外国人が孤立しないような活動も必要だと思っております。昨年、11月に世界ふれあい祭で TIFA のブースを開設しました。受講生が立川近郊の市民とお茶を飲みながら交流することを期待していましたが、参加した受講生が少なく十分な交流はできませんでした。今期は受講生への PR を徹底的に行い、楽しく交流できるよう準備するつもりです。最後に、TIFA の活動に参加してくださっている皆様には心から感謝を申し上げ、一緒に学び共に成長していきたいと思っております。これからもどうぞ宜しくお願い致します。

定期総会及び懇親会

5月25日(土)、13:30～15:30に柴崎会館にて定期総会が開催されました。繰越金への提案、西砂のオンライン授業の効果、図書の廃棄についてなどの質問や意見が交わされ、各議題は出席者および委任状を含めた55名(定数59名)によりすべて承認されました。

総会后、多くの会員が参加して17:00まで懇親会が行われ、皆さんのスピーチにより、相互理解を深めることができました。

出席者：土曜17名、木曜10名、西砂1名、計28名

委任状：土曜2名、木曜9名、西砂16名、計27名

議題：①2023年度活動報告 ②2023年度決算報告

③2024年度活動計画 ④2024年度予算案

⑤新役員承認 ⑥えんかわサロンに係る会則改正について



リレーコラム 交差点

木曜教室 北岸 一樹 ハワイの“自然”を着る

私の趣味の一つはアロハシャツ収集です。現在300枚ほど所有しています。中でもハワイ島ヒロに拠点を置くシグ・ゼーンというブランドをこよなく愛

しています。ここの特徴は実在する植物をモチーフにしていることです。外からハワイへ持ち込まれ、誰もが知るブルメリアやハイビスカス



といった外来種ではなく、ハワイ諸島にしか自生しない希少な固有種や、古代にタヒチからハワイへ渡ったポリネシア人が持ち込んで古代ハワイの生活に不可欠だった伝統植物などが生き生きと描かれています。

毎年渡ハのたびにシグ・ゼーンのシャツを着て、シャツに描かれた実在の植物を探し求めて離島の隅々を廻り、植物とシャツのツーショット写真を撮り続けて15年。撮影植物数は70数点を数えます。

また、ウクレレ演奏も趣味で、曲と所縁のあるハワイの土地を訪ねては、その場で演奏して動画撮影を楽しんでいます。

写真も動画も撮影者がいてこそ成立します。ハワイの強烈な陽光の下、芸能人のマネージャーの如く私が着替えたシャツや楽器ケースなどを抱えながら満足いく写真が撮れるまで辛抱強く撮影してくれる妻には感謝しています。

土曜教室 浅川 克之 話すほうが楽しい

初めの頃は、少し気負いもありました。日本語教師の養成講座を終えたばかりで、やる気満々。日本語を教えてやるのだ、なんて思っていました。



「間違いを気にせず、たくさん日本語が話したいんです」ある日、受講生に言われました。彼らは慣れない国に来て、話したい事がたくさんあります。しかし普段生活している学校や職場で、拙い日本語を熱心に聞いてくれる機会は少ないでしょう。彼らの一番の目

的は、日本語でもっとコミュニケーションができるようになるということです。そのためには90分の大半、読ませて、書かせて、話させることが必要なのだと思います。素直に黙って聞いてくれるのをよいことに、ボランティアばかりが話すのは、けしてよい関係とはいえません。彼らはわざわざ、老人の長話を聞きに来ているわけじゃないのですから。教える以前に、とにかく全身全霊で、受講生の話に耳を傾けることが最重要なのではないでしょうか。

話は、聞くより話すほうが、断然に楽しいです。だから人は話を聞いてくれる相手に、好意を抱くそうです。今は7:3、理想は8:2くらいの割合で、受講生に話させるように心がけています。受講生をボランティアにしないためにも。

西砂教室 佐藤 公男 オンライン学習を広めよう！

つい最近、柴崎教室が一杯で断られた受講生が西砂教室に通ってくるほどですから、柴崎教室は受講生が



溢れているようです。西砂も同様ですが、入管法改定の影響もあって、今後益々受講生が増えると予想されますので、何とか

対応したいものです。

そこで今我々にすぐできることと言えば、「オンライン学習の導入」ということではないかと思います。当協会で行っているような外国人に対する日本語教育には、オンライン学習はとても有効です。むしろ対面では不可能な多くの利点があります。

例えば学習日時。西砂で言えば対面は土曜の夜のみですが、この時間をさけたいという受講生や講師希望者は多くいるはずで、幅広い受講生の要望に応えられます。また、オンラインで使用するソフトも充実していて、資料を同一画面で見ながら学習できたり、ネット上の資料を簡単に引用することも可能です。

他にも多くある利点について、ここでは割愛しますが、機能を十分生かした実体験でご理解ください。

最近西砂教室では、オンラインのみを行う講師も増え、また、体調不良などで教室に通えなくなった講師が、オンラインに切り替えて、活動を継続するなどの事例もあります。西砂教室では、今後もオンラインに積極的に取り組んでいきます。

なお、ついですが、管理体制については、ソフトにその機能が設けられており、ご懸念には及びません。

すわっ祭

2024年5月17日(金)～19日(日)「第47回 柴崎学習館まつり すわっ祭」が開催され、柴崎



学習館を拠点として活動する団体が主体となり、サークル体験、作品展、舞台発表会など各種催しが開催されました。TIFAは今回、

地下ホールにて、日本語教室での活動やイベントの様子を写した写真、TIFA 多文化交流サロン～えんがわ～の紹介、ひとコマ漫画などをパネルで展示して活動を紹介しました。ブースへの来場者は、3日間で116名でした。



土曜教室 ボランティア研修会

2024年6月22日(土)柴崎学習館第一教室にて、今年度第1回土曜教室研修会が開催されました。参加者は木曜教室の1名を加えて15名。今回の研修目的は、「学習者の誤用を共有し、今後の各自の指導に活かす」という内容でした。

前半1時間は、担当受講生の母国語によって、米国系、中国系、その他の3つのグループに分かれ、以下の話し合いを行い、内容を付箋に書き模造紙に貼付けました。

- ①母語と日本語の「音」「表記」の違いからくる弱点・誤り
- ②母語と日本語の「文法、文の仕組み」の違いからくる弱点・誤り
- ③日本人の見方、考え方の特殊性からくる学習者のつまずき、弱点・誤り

後半30分は、模造紙をボードに貼って、話し合いの結果を発表しました。

学習者のつまずきの多くは日本語特有の表現によるもので、それに対する指導者の様々な工夫が発表されました。また、参考資料として「外国人が間違えやすい日本語」というプリントが配布されました。

最後に研修の感想シートを後日メールで提出するよう宿題が出され終了しました。



グローバルフェスタ

外国人と日本人が寄り添うまちづくりを目指して、”外国人も日本人も集まり、動いて楽しもう”をモットーに「Tachikawa Global Festa」が6月29



日(土)ドーム立川立飛で開催されました。立川市後援のもと、立川青年会議所が主催し、TIFAからは協力団体として4名が参加しました。10:00から開会式が始まり、15:00の閉

会式までの長い催しでした。TIFAのブースではテーブル上にTIFAの活動が分かる写真類や会報、30周年記念誌を展示したり、TIFAブースに立ち寄る人にボランティア募集のパンフレットを配りました。簡単なスライドショーを作り、大きなスクリーンでTIFAのPRもしました。会場内は3つのブースからなり、

バスケットやフットサルでの交流、外国人講師による英会話、日本の昔遊び体験など盛りだくさんのイベントが同時に進行して、最後は、会場全体を使い夏祭りの定番である盆踊りを楽しみました。疲れましたが、楽しい1日でした。



七夕まつり

土曜教室

7月6日(土)第一教室と作業室に於いて、七夕祭りが開催されました。参加者は短冊と折紙作りに熱心



に取り組む、自分の思いや願いを日本語で書きとめ笹に吊るしました。そのあと自己紹介と短冊の発表が行われ、来日して日の浅い受講生も勇気を出して日本語のスピーチに挑戦しました。テーマの多くは

「健康、世界平和、日本語の上達」などでしたが、中には「夏が暑くなりませんように」と切実な願いもありました。作業室ではボランティアの手品の披露もあり、拍手と共に和やかな雰囲気教室に広がり盛り上がりしました。猛暑の中、日本の伝統行事や文化に触れ、みんな笑顔で楽しんでいました。参加者は受講生20名、ボランティア19名でした。



木曜教室

7月4日（木）、真夏の暑さの中、3階の作業室



にて七夕祭りが行われました。ボランティア13名、受講生11名、計24名が参加しました。受講生もボランティアも、それぞれお願いごと

を記した短冊を、笹に飾ったり、写真を撮ったり、歌を歌ったりしました。家族や近い人たちの幸せを願うもの、世界の平和を願うものなど、さまざまな願い事がありました。最後に齋藤さんのリードで「たなばたさま」の歌を合唱しました。日本の季節のイベントをみんなで楽しむ体験になりました。



木曜教室 ランチパーティー

7月18日、3階の作業室にて、ランチパーティーを行いました。梅雨明けを感じさせる真夏の暑さでした！（参加者は、ボランティア14名、受講生19名、受講生家族2名、計35名。）

2テーブルに分かれて、おにぎりとお菓子を食べながら、楽しいひと時を過ごしました。おにぎりは日本の定番です。ツナとたまねぎのランチパックも、最近は良く食べます。食べたことがなかった受講生は、とても美味しいと喜んでいました。お菓子は、白いキャラメル、雷おこしのミニ版、柿の種など、受講生にも好評でした。今回は、受講生のご家族（お母さんと弟）も参加され、お二人とも楽しそうでした。自己紹介をしましたが、同じ国の人々が居てビックリしている受講生もいました。



ホームページ勉強会

7月20日（土）連日の酷暑の中、柴崎学習館地下1階第1教室にて午後3時から4時20分までTIFA

ホームページ勉強会がありました。講師はTIFA会長の小林さんが担当し、会長、広報部（木曜、土曜教室各1名）から2名、TIFA入会予定者2名の計5名



が参加しました。参加者には事前にTIFAホームページ操作マニュアルがメール配布され、当日は、それぞれマニュアルを読み込んだ上で勉強会に臨みました。

まずはTIFAホームページの概要についての説明があり、その後、各自持参したノートパソコンで操作マニュアルに沿った演習をしました。参加者からの質問にもわかりやすく丁寧な回答があり、和やかな雰囲気の中にも士気を高め合う勉強会となりました。



夏のレクリエーション

7月21日（日）昭和記念公園において、夏季レクリエーションが4年振りに実施されました。最初のプ



ログラムは茶道体験で、日本庭園内のお茶室（飲楓亭）を訪問し、作法を学びながらナデシコの花をデザインした「和菓

子」と爽快な清涼感に溢れる「冷抹茶」を美味しく頂きました。昼食のあと、スイカ割り大会が行われ、甘くて美味しいスイカをみんなで頬張りました。最後にビンゴゲームも行われ、大きな歓声が沸き盛り上がりま



した。大部分の受講生にとって、全てのプログラムが初体験で新鮮な感覚だったようです。多文化共生の活動推進にあたり、レクリエーションの大切さを改めて感じたところです。参加者数はボランティア13名、受講生21名（内子ども1名）でした。

立川国際友好協会

西砂教室

